

桜中だより

長崎市立
桜馬場中学校
校長 大塚 潤

きょう 長崎原爆の日

如己愛人 このごとき人を愛せよ



校区まつり、みんなで盛り上げました

本日8月9日は、平和の大切さを発信する態度や、平和希求の精神を培うことなどを目的として、平和集会を実施しました。平和集会での講話を掲載するので、改めて親子で平和について考える機会にしてください。

校長講話

今日、79年目の「長崎原爆の日」を迎えました。皆さんは、1学期、学年

会にしてくれると嬉しいです。

毎に平和学習に取り組みました。この取組は、小学校からずっと続けています。だから、原爆の恐ろしさや戦争の悲惨さはたくさん学び、よく知っています。そこで、皆さんに改めて問い直してみたいと思います。

います。
「原爆による損害で、一番大きかったものは何だったかと思いませんか？」

実は、このことは、私にとって長い間の疑問でした。それが先日如己堂を訪れたとき、その答えに出会いました。それは、永井隆博士が書かれた本にありました。

永井博士は、長崎大学の放射線科医師で、戦争当時は結核患者が多かったうえにフィルムが乏しかったことから、直接透視をしたことにより、大量の放射線を浴び、戦争が終わる頃、「残り3年の命」と宣告されていました。その数日後、長崎大学付属病院で原爆を被爆。奥様と財産を失いました。大ケガを負いながら、人命救助に奮起。寝たきりになりながらも畳2畳の如己堂で、平和についての執筆活動をされた方です。その永井博士が書いた本、「如己堂随筆」に、次のようなことが書かれていました。

如己堂を訪ねてきた田川という小学校の先生は、原爆で妻と4人の子どもを失い、財産をすっかり

燃えてしまい、たった一人の男の子が残っただけでした。その田川先生と永井隆博士の会話。
「あの原子爆弾が私たちに加えた損害のうちで、一番大きかったものは何でしたらうか？」
「そうですね。私にも近頃それが何であるか、気がついてきました。」(と永井博士)。
「それは、心に受けた傷ではないでしょうか？」
「そうですね。心の傷です。あなたも同じことに気がついたのですか。それは、妻や子を残した悲しみとか、美しかった古里が滅んだ嘆きとか、絶対に負けまいと思っていた祖国が完全に負けた悔しさとか……そんな感情ではありませんよ。」
「ええ、そうですね。そんな感情は誰だつて知っています。それじゃない。もっと違った苦しみです、悩みです。」
「そのとおり、私もまったく同じ苦しみ、悩みを心に絶えずもっています。この苦しい傷こそ、原子爆弾が私たちに加えた、いちばん大きな損害でしょう。それは、いくら原子野の復興ができあがって、

この浦上が美しい平和文化の町になつても、私たちの心になまなく残っているでしょう。」
「さあ、皆さんは、この話を聞いてどう思いましたか。私は、原爆の被害という、ついつい数字の大きさを当時の写真、また、多くの方々の悲惨な体験から想像をふくらませていました。でも、生き残られた方、一人一人にとつて「心に受けた傷」がどんなに深く、大きく、つらく言葉にもできず、しかも、時間が経つにつれて自身を苦しめてきたかということをはじめて知りました。」
私たちの町・長崎は、まさに多くの人が、このような「心の傷」を持ちながら、立ち上がり、勇気を出して復興してくださったお陰で、今があります。そう思うと、多くの犠牲者への哀悼とともに、苦難を越えてくださった方々に感謝と尊敬があります。

私たちは、原爆投下以後、平和な世の中がどのようなか、さうに深く知るとともに、それをどう受け継ぐのか、しっかりと考えて、行動していきたいものです。それは、この町に生まれ、この町に住む者の使命です。私のこの思いを皆さん一人一人が受け止めてくれると信じています。我々桜中生は、「身の回りや世界に目を向け、関心を持ち」「視野を広げること」「いろいろな人と対話し、仲間と協力して、行動に移すこと」が、使命です。

平和学習で、気を付けてほしい3つのこと。

(1) 平和学習は、日常の生活とかけ離れたものではない。

(2) 「自分たちができることから」「継承・発信していくことが大切。」

(3) 未来の子ともたちに「平和のめくもりを譲り渡すこと」が願いである。そういう思いで、戦争だけに留まらず、各学年に応じた一人一人が幸せに過ごせるための内容を「平和」と考え、それを真剣に学ぶという桜中の平和学習にしましょう！

過去と未来をつなぐ平和の担い手となり、世界中の人々との間の架け橋となることを決意し、真の「平和の扉を開く」ために行動しようではありませんか。

2学期の目標

■僕達1年生は、1学期全体を通して、様々なことを経験しました。その中でも印象に残った2つのことについて話します。

1つ目は大運動会です。各クラスいろいろな問題や課題を抱えていました。トラブルがあったクラスもありましたが、話し合っ

て解決していききました。競技の練習でもバトン練習、大縄練習など協力してやり遂げました。応援

合戦では、大きな声を出すことが得意ではない人もいました。3年生が優しく教えてくれたこと

で、本番前には全て覚え

ることができました。また、大運動会当日の応援

合戦では、みんなで楽しく応援することができました。

2つ目は学習面です。小

学校の時よりも学習内容が難しくなり、授業の時



校区まつり、和太鼓部 力強い演奏

と感じることもありまし

た。しかし、みんなで話し

合う活動では、自分の意

見を素直に発言でき、自

分の考えをもっている人

が多いように感じます。

課題がたくさん見つかつ

た1学期でしたが、この

夏休みにキュビナなどを

活用して、これまで理解

できなかったことが大きく心

に残っています。また、生

徒総会では、桜中の課題

に対してみんなで意見を

出し合ったり、平和学習

では核兵器のない世界の

実現に向けて講師の方の

話や調べたことをもとに

してまとめたりしました。

どちらの活動も、大きな

問題ですが、それぞれ自

分事として考えを深め、

真剣に取り組むことがで

きました。

2年生の学年目標のひ

とつに挨拶や返事、整理

整頓、正しい考え方や言

葉遣いなどの正しい習慣

を身に付けることがあり

ます。この中の正しい考

え方や挨拶、返事などに

ついては、1年生の頃と

比べて大分よくなってい

ると思います。一方で、

整理整頓や言葉遣い、時

と場に応じた言動など、

まだまだ努力しなければ

ならない課題もあります。

特に2学期は修学旅行

や合唱コンクールなど楽

しめている人や、キュビナ

を有効活用している人、

テスト期間中の昼休みに

友達と勉強している人も

いました。

一方でまだ学習への態

度が低い人もいます。先

ずは、8月の実力テスト

に向けて夏休みの時間の

使い方を考え、後悔のな

いよう勉強に取り組み

ほしいと思います。

2つ目は、生活面につ

いてです。大運動会では

下級生をまもる上げるリ

ダーシップを発揮したり、

自分の競技に真剣に取り

組んだりする姿が見られ

ました。また、最後の中

総体に向けて一生懸命練

習し、最後まで諦めず試

す。

3年1組

連日、うだるよう

な暑が続いています。

いかがお過ごしでし

ようか。

夏休みは後半に入り、

2学期の準備です。

真夏日や

職員室は

秋行事

「明日からやろう」と

4年生

「明日からやろう」と

「明日からやろう」と

「明日からやろう」と

「明日からやろう」と

「明日からやろう」と

「明日からやろう」と